

日刊 動労千葉

84. 2. 6

No. 1557

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五六 (公衆)〇四七二二七二〇七

国鉄・三里塚で総決戦をかけた闘いが求められている

研修講座開催



↑ノートを取りながらみっちり学習。17時に起床し、全員で体操。



※※※※※

動労千葉は一月三日と二月一日の二日間、国民宿舎・九十九里センターにおいて研修講座を開催しました。全支部から参加した六〇名の組合員は熱心に学習し、国鉄労働運動の戦闘的再生をかけて、3・25三里塚への全力決起と動乗改悪阻止を闘いぬく決意をうち固めました。

※※※※※

第一日目

高島氏、布施書記長の講演

今回の研修講座は、動労千葉の今年の獲得目標の一つである「組合員総学習による理論武装の強化」をかちとるものとして、一月十日の「本部役員研修講座」につづく支部役員を中心とした「組合員A教育」として行われたものです。

第一日は雨と雪という悪天候となり、全参加者の到着をまつて開会しました。

まず、本部を代表して中野委員長は「われわれは一大学習運動を展開することによって、今日の形が強化した労働運動の中に動労千葉の路線を拡大し、こうした闘いを基礎に中曽根を打倒しなければならぬ。本日の研修講座を全力で闘いとり、職場で独自の学習をかちとる素材としてほしい」と、研修講座でかちとるべき課題を明らかにしました。

最初の講演は高島喜久男氏(労働運動研究者)より、「いま労働運動はどうなっているか」をテーマに行われました。

高島氏は、日本の労働運動がどのようにして支配階級のもとに統合され、今日の右傾化に至ったかについて事象を追って説明されるとともに、とりわけ今日の否定的状況を突破する道は三里塚闘争の全国的拡大にあることを明らかにされました。つづいて、映画「三里塚闘争18年」が上映された後、一日目の最後として布施書記長より「動乗

動を中心とする当面する動労千葉の取り組み」をテーマに講演を受けました。

布施書記長は、今日のとりまく情勢の中で、動乗制度改悪攻撃のだされた背景と狙い、さらに各組合の動向、とりわけ動労「本部」革マルの裏切りを中心とするこれまでの経過が報告されました。

そして、当面の取り組みとして、三月、六月末のヤマ場に組織をかけた闘いとして、もてる力を最大限発揮し、あらゆる可能性を駆使して闘う決意が述べられました。

第二日目

杉田明氏の講演

第二日は午前七時に起床し玄関前に集合、関特執の指導で体操と軽いランニングで身体をほぐしてから学習に臨みました。

杉田明講師より「臨調国鉄攻撃と労働者階級」をテーマに、四時間にわたる講演を受けました。杉田講師は、今日の臨調国鉄攻撃が戦後日帝を支えてきた平和主義、経済主義、民主主義のことごとくがカベにぶち当たり、深刻な危機に直面しているところからできてきている点についてリアルに解明しました。

そして、体制的危機からの脱出をかけて労働者を戦争に引きこもうとする日帝の攻撃に対する、労働運動の現状を分析し、とりわけ「冬の時代」と主張し、じつと我慢していれば春が来るかのようについて闘いをつぶしにかかる最悪の反動分子「動労「本部」革マル」の登場の中で、動労千葉の81・3闘争の質を労働運動にもちこむことの重要性が強調されました。

そして最後に、「3・25三里塚に動労千葉を中心に千名の国鉄労働者が決起すれば、確実に国鉄労働運動は流動と再編過程に突入します。今、動労千葉が大胆に登場することが求められています。それは日本の労働運動に大きな影響を与えることになるでしょう。われわれの側から総決算をかけた闘いが求められているのです」としめくられました。

講演終了後、全員が「感想レポート」を提出し水野副委員長の団結ガンバロウをもって、十五時に全日程を終了しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!